

季刊・冬の号

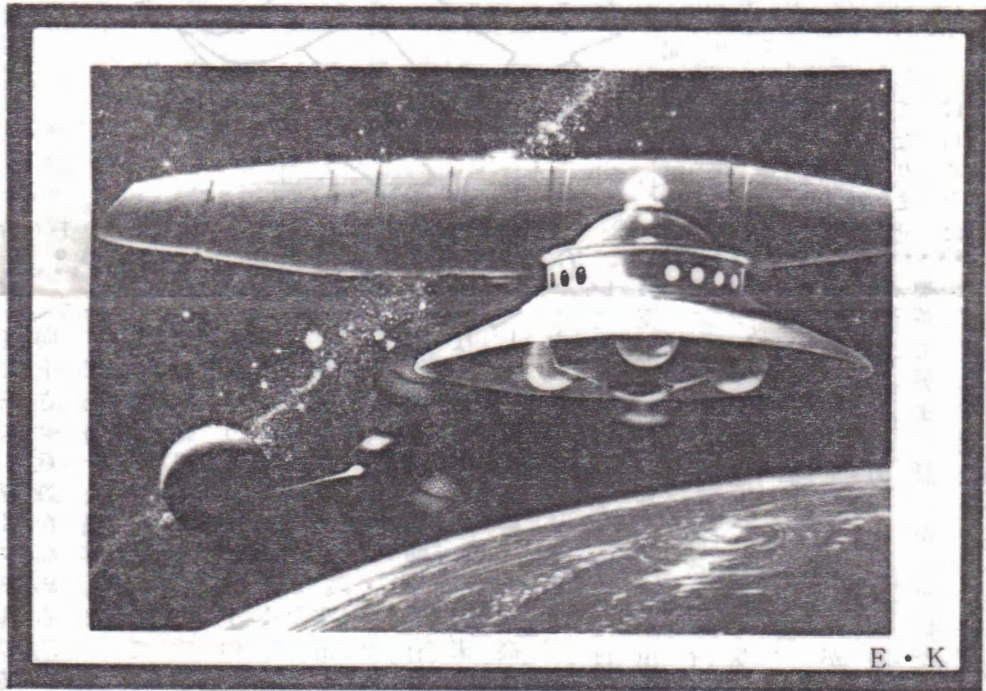
57年12月

支部通信

総会に参加して・・・・伊藤信重
吉田有希
小野陽子



アダムスキーの宇宙科学・伊藤信重



E・K

日本GAP札幌支部

創刊号

82
総会 雑感。

伊藤重信



去る十月十日、日本GAPの総会が行なわれ、私も一年ぶりで上京し有意義な一日を過ごしました。何と言つても総会で多くのGAP会員と再会し語り合えるのが、私にとつては貴重な体験なのです。

また、総会で聞く久保田会長や講演者の方々の生の声は、地方で活動している私達には大変励みとなります。何か目に見えないパワーを送られてくるような気がしてなりません。今回の総会ではGAPは「知らせる運動」という意味の他に「人と知り合いになる

私の10月10日。

運動とも教えられ、「GAPこそは、人間の理解力を向上させ意識を高める活動である」と痛感しました。映画「十戒」については何の説明も要さないでしょう。4時間以上の大作にもかかわらず、内容が分かりやすく、宇宙の法則やスペース・ブラザースの援助に関する有益な知識を得ることが出来ました。総会が終つても高揚した気持ちはさめやらず、続いて行なわれた大夕食会では、各支部の会員と身近に話が出来たことで、さらに高次なフイリングを強く感じ、最高の気分でした。この日は、二次会、三次会とながれて行きましたが、私は何名かの方々と二十四時間喫茶で朝まで話しをしていたので、実に有意義な一日でした。

今年の総会も、高度な波動に包まれ素晴らしいふんいきの内に終わりました。上京する前日まで、仕事がぎつしりつまり、この分では無理ではないかと思つたのですが、不思議と出席できました。会場に着きますとあちら、こちらになつかしい顔々、「あーやつぱり来てよかつた。」という気持ちが一杯になり胸が苦しくなつたものです。宿泊のグリーンホテルは、総会出席初めての時に泊つた処で、場所がわからず約一時間もかかりたどりついた、思い出のホテルでした。その時の部屋は十階で窓よりのながめはどこを見ても高層ビル、空がはるか遠くに感じたものでしたが、それがまた新鮮にうつつたものでした。今はホテルにつくなり「東京はこんなもの。」というように部屋にゴロリ、新

吉田有希

鮮な気持ちには消え失せ、あるものはつかれのみで、これではいけないと反省させられた。総会前日でもありました。翌日は素晴らしい波動に包まれながらの映画鑑賞、夕食会では、また和気あいあいのふんいきの中で老いも若きも一つの歌に誘われ一体化した状態は、素晴らしい波動に満ちておりました。会員の方々と短いながらも一堵できるこのふんいき、このふんいきが私には大切だと感じておりました。

会員の一人が私に耳うちし

てきました。GAPの人達に出会うとなぜか心が安らぐのです。私も上京の前日まで仕事、仕事で追われていたせいでしようか。皆さんに出会ったとたん、その人と同じようにほつと安堵しておりました。夕食会の席にはいたような感情をいただいた人が、少なからずまわりにおりました。

このふんいきは、他の集団では、決して感じとることが出きないものです。今は一人静かに小宇宙であるところの人間の内面に向かいレッズンしておりますが、総会当日の素晴らしい波動を思い起し、明日へのエネルギーとしております。四月よりは新しい職場にかわり「想念」に支配されない自身を作り上げようと、気に入らせています。来年も上京できるよう、今からミラクルワールドにとりかかっています

小野陽子

盛大のうちに終わつたGAP総会。入会してから初めて参加することになり、期待に胸をわくわくさせながら上京したことは今でもはつきりと感じられます。実は、この総会に参加することは、六月の旭川の合同総会の際に「私は絶対東京の総会に参加しなくてはならない」という印象がとび

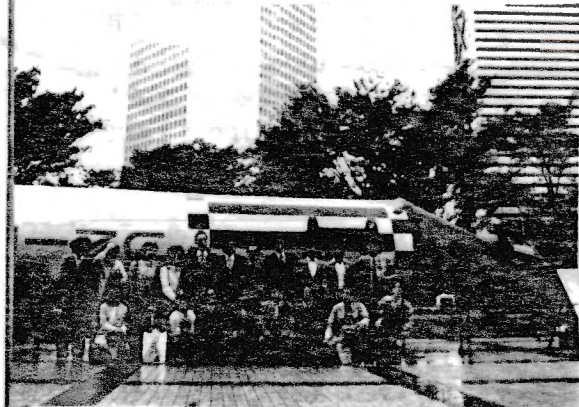
こんできてそれに従つたからです。その結果、やはり参加してよかつたとつくづく感じている次です。多くの友達が出きましたし、なによりみんなと始めて会つた気がしないのです。昔から知つていたような感じさえわきおこつてきて、その時の気持ちはとても言葉では表現できませんが、たぶんこれは多くのGAPの人達が感じていることと思つております。さて、総会が始まり久保田会長の講演がはじまつたころには、まわりはふんいきはまるでちがいの話を聞いているうちになんともしえない気持ちになり涙がこぼれそうになるのをこらえるのにひつしでした。まわり中、泣いていた人が多かつたようです。これは、先生の私達、もしくは宇宙全体に対するあたたかな広い大きな愛情に他ならないと思ひます。ま

た「十戒」も私としては3回目であつたにもかかわらず、とても感動しました。何回見てもこの映画は見あきないすばらしい映画です。

それでは、簡単ですが日本GAPのみなさん、久保田先生、また会う日まで。

P S

文章を書くのがニガテで支離滅裂のところも多いと思ひます。また乱筆ですがご容赦下さいね。



ジョージ・アダムスキー氏は、1953年に宇宙船に乗船して宇宙空間から地球をながめました。以来、アダムスキー氏はスペース・ブラザーズとのコンタクトにより多くの重要な情報を我々に伝えて来ました。それは、生命の働きから大宇宙の構造にいたるまでの全てが人間にとって必要な知識です。

さて、宇宙に関する情報は、現在、各種機関より公表されていますが、NASAやソ連科学アカデミーの宇宙開発計画によるところが大きいと思われます。このめざましい宇宙開発の前にアダムスキー氏の体験は忘れられようとしています。しかし注意深く調べみると、アダムスキー氏が、20数年も前に体験した事を実証するデータの存在が分かります。

例えば、火星と木星の間にある小惑星帯の成因について、微惑星から惑星への成長過程と同じように考えられています。宇宙考古学ではかつて惑星があつて、それが何らかの原因で破壊したという説がありますが、その仮説では、惑星を破壊し破片をばらまくだけのエネルギー源を見つけ出せないと言う。

アダムスキー氏は、空飛ぶ円盤の真相の中で次のようにのべています。このように自然の誘電体として役立つこのアステロイド帯は、いわば遊星を生み出す宇宙の子宮のようなものであると私は聞かされている。つまり、小惑星帯は惑星が破壊されたのではなく、惑星になりつつある段階にあるといえます。

現在、惑星探査機パイオニア10、11号やボイジャー1、2号の観測データにより、太陽系の活動についての新事実が次々と明らかにされていますが、アダムスキー氏はこれらの探査機が打ち上げられる10年以上も前に情報を得ていました。さらにアダムスキー氏は、アステロイド帯が太陽からの放射線を引きつけ加速する事をのべていますが、パイオニア10、11号も同じデータを送つてきているのです。火星や金星に人間がいることは、すぐには知らされないでしょう。我々には受け入れるだけの心の準備が来ていません。しかし、他の真実は公表されるはずで、それによつてアダムスキー氏の体験が実証されていくのではないのでしょうか。

(参考文献 科学朝日 1982年7月号)

~~~~~編~~~~集~~~~後~~~~記~~~~~

- ◎ 今回は、総会特集号としましたので、参加した方々にひと言ずつ書いていただきました。
- ◎ アダムスキー氏の体験から見てゆくと、氏は地球人に対して有友好的な異星人とコンタクトしていますが、これは多分に氏の人がらによるところが大きいように思われます。どんな状況にあるかと人生の前向きな面をつねに追求していた氏の活動を通して、私達は直接かれらに接触したわけではないけれど、ひとりの中継者を通じて、他の世界の住人達の文化に接する機会を得ることができたという確心はたしかにあります。
- ◎ 早いもので札幌支部が活動を始めてから5年目。皆様のチームワークに心から感謝します。

◎ そろそろ札幌にも機関誌なるものがほしいといささか言いたしつべ的な発想でスタートした支部通信ですので、まだまだ未熟ですが自前のメディアらしく親しみのあるものを作つてゆきたいと思います。投稿、イラストなど随時募集しておりますのでよろしく願います。

|                |
|----------------|
| 季刊・GAP支部通信、冬の号 |
| 昭和57年12月22日発行  |
| 編集人 西沢千里       |
| 発行所 GAP札幌支部    |